

第 25 回 定時株主総会 議 案 書

日 時 令和 8 年 6 月 25 日(木) 午前 10 時から
場所 新しい村 村の集会所

[この議案書は、定時株主総会当日にご持参ください]

株式会社新しい村

■議 案■

□報告事項 第 25 期事業報告書報告の件

○第 25 期事業報告書

第 25 期決算書類の報告の件

○貸借対照表 ○損益計算書 ○販売費及び一般管理費

○製造原価報告書 ○株主資本等変動計算書 ○個別注記表

○財産目録 ○監査報告書

□議案第 1 号 取締役任期満了に伴う 5 名改選の件

任期:令和 8 年 6 月 25 日から第 27 回株主総会終結まで

□議案第 2 号 監査役任期満了に伴う 1 名改選の件

任期:令和 8 年 6 月 25 日から第 29 回株主総会終結まで

□議案第 3 号 会計参与任期満了に伴う 1 名改選の件

任期:令和 8 年 6 月 25 日から第 27 回株主総会終結まで

□議案第 4 号 第 26 期経営方針(事業計画案)の件

□議案第 5 号 取締役の報酬額の件

取締役の受けるべき報酬の額を年額 600 万円以内とし、支給の額は取締役会議で決定する。

□議案第 6 号 監査役の報酬額の件

監査役の受けるべき報酬の額を 1 名につき年額 8 万 4 千円とする。

□議案第 7 号 会計参与の報酬額の件

会計参与の受けるべき報酬の額を年額 19 万 8 千円とする。

□議案第 8 号 退任取締役・監査役に対して退職慰労金贈呈の件

□報告事項 第 25 期事業報告書報告の件

○第 25 期事業報告書

第 25 期決算書類の報告の件

○貸借対照表 ○損益計算書 ○販売費及び一般管理費

○製造原価報告書 ○株主資本等変動計算書 ○個別注記表

○財産目録 ○監査報告書

第 2 5 期事業報告書

株式会社 新しい村

企業理念 経営基本方針

(株) 新しい村の今期は、町の指定管理者としての5カ年契約期間内の3カ年度を終えました。

従業員一丸となり宮代町の「農」のあるまちづくり政策推進、並びに指定管理者としての役割と、要求水準基本要項を全ての事業部が十分理解し、お客様第一主義と現場主義をモットーに地域社会に愛され頼まれる健全な会社経営を今後も目指します。更に5カ年で掲げた業務要求水準に沿った事業計画を達成できる様邁進して参ります。

企業理念

わたしは、「農」のあるまちづくりの理念を理解し、政策実現のできる従業員を目指します。

わたしは、お客様に心から感謝の気持ちを表現できる従業員を目指します。

わたしは、お客様に心から気配りのできる従業員を目指します。

わたしは、地域社会に愛され信頼される従業員を目指します。

わたしは、仕事に対し常に問題意識を持ち行動できる従業員を目指します。

経営基本方針

ア 新しい村が「農」のあるまちづくりの拠点施設であることを理解し、宮代町と連携、協力を図り、地産地消の推進と農風景の維持保全に努めて参ります。

イ 新しい村を拠点とした交流の輪を更に広げ、「農」に親しむ町民を増やし、新たな価値の創造構築に繋げて参ります。

ウ 指定管理者としての役割の下、宮代町の農業を将来に渡し、守り続けると言う使命感と責任感を持って、事業部内の管理運営に努めて参ります。

エ 全スタッフが収益面での意識改革による経営を行い、生産者の所得向上にも努め、極限まで町の委託料に頼らない自立した事業運営に努めて参ります。

オ 施設利用者の平等、公平な利用の確保等、宮代町が定める「管理運営の原則」に沿った施設の運営に努めて参ります。

以上の経営基本方針のもと、全事業部が指定管理者業務要求水準に基づき町との施策共有を図りながら具現化に向け安定した会社運営に努めて参りました。

今期も運営にあたっての施策としましては、大きくは取締役会の充実と、現場で働く従業員との社員定例会議を有効に活用し、スタッフとのコミュニケーションを図りながら状況確認による的確な判断の下で、業務改善に努めて参りました。

また、(株) 新しい村は宮代町の指定管理者であることから、従来通り町役場担当部署、及び新しい村事業部スタッフとの月に一度の経営会議の継続は不可欠で、毎月の社内運営状況確認や事業計画進捗度に関しての助言や運営面での共有を図り、より良い施設環境を最大限に活かし、お客様の満足度を高めて参りました。

更に、今後も加速が予想されます農業従事者の高齢化と後継者不足により社内農業支援事業部におきましては、「水稻苗、稲作、農作業受託業務」等の拡大体制を視野に入れ日々の業務を行い、さらに今年度から農業用ドローンの投入により効率化なスマート農業を推進しました。

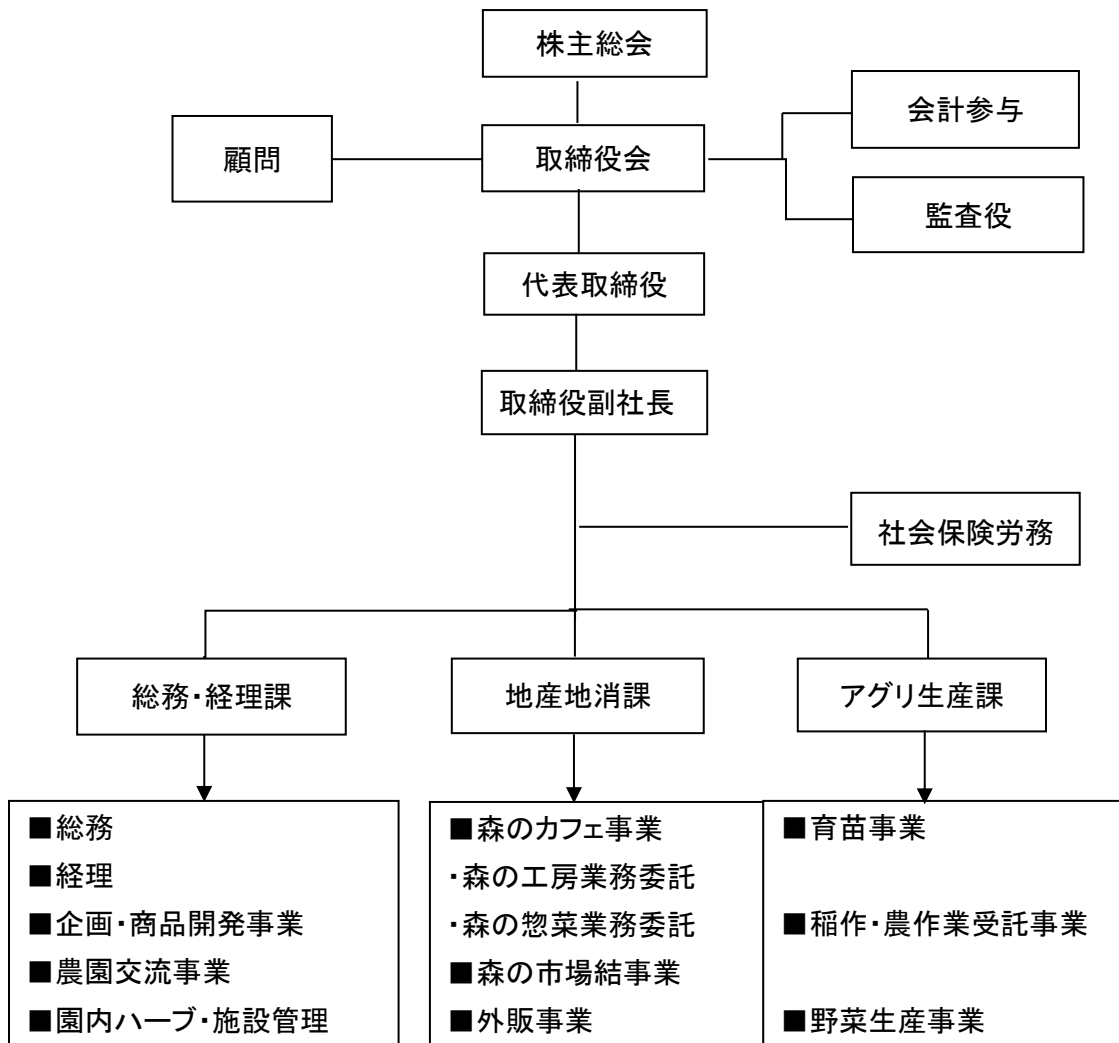
同時に森のカフェは、地産地消推進を常に心がけ運営に努めていますが、森の市場「結」に於きましては、課題となっている現状生産者の高齢化と後継者不足により出荷量は減少傾向にあります。

現状打開策としましては、常に担い手の発掘の推進と自社野菜部門にての農産物生産量拡大を含め、あらゆる手段で売場展開を図り、お客様に支持される直売所を目指し、生産者、商業者、及び従業員の生活の安定を目指した運営を図って参りました。

新規事業として東武鉄道と東武動物公園や日工大、企業や団体などと連携を組み遊休地活用による高付加価値な体験や教育コンテンツの造成に取り組み、収益性向上に努めてました。

来期におきましても株式会社新しい村に求められる役割は町の第三セクターであり、町の政策である「農」のあるまちづくりを前提とした活気溢れる施設運営と信頼されるべく健全な会社経営に向け、「お客様、生産者、商業者、関係機関」と情報共有を図り進めて参ります。

【株式会社新しい村組織図】



施設の事業運営について

全事業下記の事業運営方針に基づき実施しました。実施内容に関しましては以下の通りになります。

(1)地産地消モデル事業(森の市場「結」、森のカフェ運営)

【事業の運営方針、概要】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 宮代町の「農」のある環境を最大限に活かし、農産物直売所としての更なる活性化を図ります。
- イ 自然豊かなロケーションを最大限に活かし、直売所とマッチングした憩いの場としてお客様に利用していただく施設を目指します。
- ウ 町内、町外のお客様へ、安心・安全な農産物を地産地消の基本理念に基づき、食材提供の場としての販売所づくりを常に心がけます。

【第25期令和7年度事業計画内容、及び実施報告】

①森の市場「結」運営業務

- ア 商品の地場産率を維持継続(売上高2億4,000万円以上)
 - i 生産者とのコミュニケーションによる地場産野菜の確保
 - ii 農産物集荷サービスによる商品確保
- イ 安心・安全な商品の提供
- ウ 職員教育
- エ 学校給食センター及び大型施設等への納品(売上高1,500万円以上)
- オ 効果的なPR活動の実施

①の報告

- ア 農産物地場産比率を60%キープ目標としていますが、今年度は50.1%となりました。農産物集荷サービスによる商品確保については、集荷回数301回(件)となりました。

※月別地場産率詳細

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
比率	51.9%	57.5%	64.2%	66.2%	53.3%	37.0%
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
比率	36.8%	49.7%	53.5%	45.4%	40.8%	45.4%

- イ 生産者組合では組合全体の会議のほか、野菜や商業製品等、各部会で情報交換し安心して安全な商品の提供を話し合い、売り上げの向上に努めております。
- ウ 売場の整理整頓、お客様へサービス向上のためのスタッフ教育を実施しました。
- エ 売上額17,939千円。企業向けカタログ販売を12月に実施しました。
- オ 店内に野菜ソムリエがおススメする野菜の食べ方やレシピを掲示し、お客様に手に取って頂けるような売り場作りを心掛けました。年間を通じたイベントは以下の通りです。
 - 中止になったもの(フルーツフェスタ)

●実施したもの

生産者土曜市（毎月第一土曜）・お米の特売日（毎月4回）

（定期）

5月 春の苗物市・園芸相談会・お弁当市・あまいもの市・ゴールデンウィークフェア

6月 ホタルの夕べ

9月 新米まつり

12月 歳末大感謝祭

1月 新春抽選会（生産者組合と共催）

1月～3月 いちごまつり

3月・9月 お彼岸ウィーク

②森のカフェ運営業務（金額単位：千円）

森のカフェの目的は、お客様に自然環境に恵まれた環境の中でゆっくり料理を味わっていただくことは最もですが、他に宮代町の季節ごとにとれた新鮮な農産物のおいしさを味わい、宮代産農産物への興味を深め、食を通して宮代町の「農」のある風景を感じていただくことにあります。令和7年度の事業計画は以下のとおりです。

ア 新商品開発（新規メニューの考案や商品リニューアル等）

イ 売上額の向上（売上額1,000万円以上）

ウ 滞在時間を延ばすための飲食スペースの充実

②の報告

ア 消費者モニターを開催した際にいただいたアイデアやご提案を参考にしながら、新商品の開発に取り組みました。新商品開発（新規メニューの考案や商品リニューアル等）は、社内連携のトマトジンジャーソーダ販売や、前原中学校の敷地内で収穫されたあんずを使用したあんずソーダを販売しました。

イ 売上額の向上（売上額1,000万円以上）地域農産物を使用した商品のブランド力アップを目指し、顧客満足度を上げていく努力を行いました。（ソーダ等）

ウ カフェ内の生産者クラフト商品のほか、ハーブ商品を充実させ、ゆっくり見ながらお食事を楽しんで頂くための工夫に心掛けました。酷暑の夏に関しましては、日中のお客様が減少するものの午前中や夕方にお客様が増加し、カフェ内の冷房が効いた事で滞在時間が長くなり、客単価がアップしました。

③森の工房運営業務

森の工房は、カフェ同様、宮代町の季節ごとに採れた新鮮な農産物のおいしさを味わっていただくことで、宮代産農産物への興味を深めていただき、食を通して宮代町の実風景の保全等、「農」のあるまちづくりを推進していくことを目的としています。

また、規格外の農産物を有効利用することでフードロスの減少にもつなげています。

令和6年9月よりパン・ピザ部門を「㈱ケイズハウジング」、令和5年8月より惣菜部門を「アンカルク株式会社」に協力をいただき、新鮮な宮代産の農産物にこだわったパンやピザ、惣菜はお客様からも大変好評です。令和7年度も引き続き「㈱ケイズハウジング」、「アンカルク株式会社」へ再委託を行い、お客様と生産者に喜ばれる商品販売を手がけるとともに、

会社の安定経営に資するよう努めていきます。

③の報告

森の工房の外部委託2社と共有し、直売所・カフェでの販売のほかイベント時には地産地消の農産物を使用したオリジナルの商品等を販売することが出来ました。

④生産者組合会議運営協力業務

森の市場結では、生産者自らが、より良い農作物の生産を学び、情報を交換し、農家と商業者とが交流を図り、組合全体で森の市場結の売上向上に努めます。

ア 年4回の運営会議

イ 年2回以上の生産者組合だよりの発行

④の報告

組合全体で森の市場結の売上向上に努めました。

ア 年4回の運営会議の実施(6月・9月・3月・4月)

イ 年2回以上の生産者組合だよりの発行(11月・3月)

⑤利用者会議運営業務

弊社では平成28年度より、より良い「直売所、カフェ運営」とお客様との交流機会の増を目的に「消費者モニター」を公募し年4回(11月、2月、5月、8月)開催しています。

また、モニター会議とは別に多くのお客様からの情報提供を得られる一つの手段として、森の市場「結」及び森のカフェには、アンケート用紙と掲示板を設置し、お客様からの声を積極的にお聞きし、森の市場「結」、森のカフェ、森の工房の運営改善につなげています。令和7年度も引き続き行います。

⑤の報告

R7年5月23日、9月2日、12月16日、R8年2月24日に実施し、意見交換を行いより良い直売所運営の改善につなげることが出来ました。

⑥生産者集荷・商品宅配サービス業務

少子高齢化の流れは森の市場「結」も同様です。高齢化に伴い、運転免許の返納や家族の独立等によって、圃場での生産はできるものの出荷ができない農家が増えています。

また、お客様についても「買物難民」と言う言葉があるように、移動が困難な高齢者がお米や野菜等、重い農産物の買い物に困っているケースが増えています。弊社ではこうした課題に対応するため、平成29年度より「集荷宅配サービス」に取り組んでいます。令和7年度は、安定した供給量を確保した移動販売支援として各関係者と再確認し調整し実施に迎えるよう考えております。

⑥の報告

生産者集荷サービスにつきまして直売所バックヤード生産者連絡ボードによる案内を掲

示や生産者と直接相談し、更に多くの商品が出せるように努めました。年間の集荷件数は301件（回）となりました。商品宅配サービスは、年間宅配112件となりました。

⑦取り組みの目標値

森の市場結は単なる直売所ではなく、地域の農業と消費者をつなぐ架け橋となることを目指し、地元の農産物を中心に据え、その魅力を最大限に引き出す売場づくりに取り組んでいます。別途、取り組み計画表を作成し、スタッフ全員で意識をしながら四半期毎の進捗確認と、最終四半期には次年度の予定の作成を行います。

ア 新規生産者の獲得(5名)

イ 買取生産者・仲買業者獲得目標(2社)

ウ 地場産を明確化した売り場レイアウト変更

⑦の報告

取り組みの目標値を付けながら実施しました。

ア 新規生産者の獲得(5名)

町内2名(島村清代子・大槻明秀)

町外5名(株)ベジタブルボーイズカンパニー・齋藤勇・日建リース株式会社・金子千春・西谷秀則)

イ 買取生産者:株式会社関田農園・仲買業者:株式会社花徳

ウ 2月～3月に掛けて予定していましたが、今後の改装を見越して延期となっております。故障した漬物、こんにゃくの什器の撤去が終わり次第、地場産の野菜・果物のコーナーの設置を行います。

⑧売上計画実績報告

ア 森の市場「結」 第25期月別売上計画表(実績)(単位:千円)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	22,700	28,000	17,500	16,000	21,000	20,900
25期実績	21,337	22,155	19,763	15,127	21,513	21,906
前期実績	21,879	20,698	16,948	13,965	19,882	21,170
増減	▲542	1,457	2,815	1,162	1,631	736
前期対比	97.5%	107.0%	116.6%	108.3%	108.2%	103.5%
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
売上予算	20,500	17,300	24,000	16,000	16,700	20,000
25期実績	19,828	19,904	24,423	15,892	17,684	21,141
前期実績	18,766	17,650	25,246	18,150	19,615	20,518
増減	1,062	2,254	▲823	▲2,258	▲1,931	623
前期対比	105.7%	112.8%	96.7%	87.6%	90.2%	103.0%

イ 森の市場「結」 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比（実績）（単位：千円）

項 目	売上予算	売上実績	前期実績	前期対比
上半期	126,100	121,801	114,542	106.3%
下半期	114,500	118,872	119,945	99.1%
年間合計	240,600	240,673	234,487	102.6%

ウ 外販事業 第25期月別売上計画表（実績）（単位：千円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	1,350	1,500	1,500	1,480	820	1,620
25期実績	1,352	1,780	1,626	1,245	834	1,555
前期実績	1,306	1,532	1,497	1,280	842	1,601
増 減	46	248	129	▲ 35	▲ 8	▲ 46
前期対比	103.5%	116.2%	108.6%	97.3%	99.0%	97.1%
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
売上予算	1,590	1,430	1,980	1,610	1,550	1,220
25期実績	1,341	1,441	2,068	1,539	1,627	1,531
前期実績	1,562	1,420	1,536	2,016	1,501	1,277
増 減	▲ 221	21	532	▲ 477	126	254
前期対比	85.9%	101.5%	134.6%	76.3%	108.4%	120.0%

エ 外販事業 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比（実績）（単位：千円）

項 目	売上予算	売上実績	前期実績	前期対比
上半期	8,270	8,392	8,058	104.1%
下半期	9,380	9,547	9,312	102.5%
年間合計	17,650	17,939	17,370	103.3%

オ 森のカフェ 第25期月別売上計画表（実績）（単位：千円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	1,080	1,100	870	800	900	1,000
25期実績	1,125	1,143	903	778	925	932
前期実績	1,202	1,061	848	660	876	892
増 減	▲ 77	82	55	118	49	40
前期対比	93.6%	107.7%	106.5%	117.9%	105.6%	104.5%
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
売上予算	1,000	850	600	620	650	980
25期実績	852	974	588	513	706	1,027
前期実績	909	868	618	592	606	837
増 減	▲ 57	106	▲ 30	▲ 79	100	190
前期対比	93.7%	112.2%	95.1%	86.7%	116.5%	122.7%

カ 森のカフェ 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比（実績）（単位：千円）

項 目	売上予算	売上実績	前期実績	前期対比
上半期	5,750	5,806	5,539	104.8%
下半期	4,700	4,660	4,430	105.2%
年間合計	10,450	10,466	9,969	105.0%

キ 地産地消事業全体売上計画表（実績）（単位：千円）

項 目	売上概算	25 期実績	前期実績	前期対比
森の市場結	240,600	240,673	234,487	102.6%
外販	17,650	17,939	17,370	103.3%
森のカフェ	10,450	10,466	9,969	105.0%
合計	268,700	269,078	261,826	102.8%

令和7年度レジ通過者数（森の市場結・カフェ）161,471 名（前年 168,644 名）

施設の事業運営について

(2)農家支援・農業サービス事業(育苗、農産物生産、圃場管理)

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 「農」のある環境を維持再生していくための、農家に対する支援対策事業を行います。
- イ 関係機関と連携をとり「農」のあるまちづくり政策に基づいた農業支援事業としての社内受け入れ態勢の確立を目指します。
- ウ 自社生産部門の収益増、直売所の課題である農産物出荷量減の一部解消、及びその他関係取引施設への安定供給を図りながら、年間を通しての本格的な野菜生産を行います。
- エ 中長期的に、町との連携を図りながら、遊休農地を活かした、新規就農者及び農業担い手研修の育成拠点施設を視野に入れたシステムの構築を目指します。

【第25期令和7年度事業計画内容、及び実施報告】

①水稲苗生産販売の強化

品質及び育苗管理の省力化に成果のあう「全面プール育苗方式」を採用しています。

- ア 引き続き、水稲苗の生産枚数は30,000枚以上を目標とします。
- イ 安心安全な米作りのために、種子消毒は温湯消毒で行います。

①の報告

種子消毒は温湯消毒を実施し、生産枚数は31,225枚（販売枚数28,015枚・自社使用枚数3,210枚）となりました。

②育苗施設の有効活用

水稲苗育苗パイプハウスを利用して、以下の有効活用を行っていきます。

- ア 育苗用パイプハウスの貸出
- イ 野菜の育苗施設として活用しています。（春作付けは、トウモロコシ、枝豆、秋作付けはサツマイモ、キャベツ、ブロッコリー）
- ウ パイプハウスは、台風や降雪への対策を講じ、周辺を防草シートで覆う等適切に管理します。

②の報告

全てのパイプハウスは適正管理に努めました。

③自社生産農産物の安定供給

- ア 水管理や施肥を工夫し、継続して高品質な自社生産米の生産を継続して生産します。
- イ 圃場ごとの作付計画及び管理シートを作成するとともに、化学肥料及び化学農薬の低減に努め、安心安全な高品質野菜の販売を行います。
- ウ 品種別に特別栽培米の生産比重を高め販売量の増大や販売企画の工夫を行います。
- エ 専門技術を要する、冬期に暖房器具を使用した抑制栽培としてトマトの栽培を行います。

③の報告

水田圃場を衛星データ解析による栽培管理を行い細かいデータを見ながら肥料などの使用を調節することで自社生産農産物の安定供給に努めました。また今期は米関連企業と連携し新しい品種の栽培に取り組む等新たなチャレンジにも挑戦しました。

④農園交流事業との連携

新しい村敷地内の収穫体験用圃場は、農園交流職員と協力して、アグリ生産課の職員が一部の畑作物の育苗、定植を行っています。また、田んぼの畔塗りや代掻き作業等専門の農業技術を要する部分についてもアグリ生産課職員が作業を行っています。さらに農園交流事業で使用する農機具と技術を共有連携しています。令和7年度も引き続き行っていきます。

④の報告

さつまいも収穫体験用圃場でマルチのはりつけ指導や田んぼの管理はアグリ生産課スタッフにアドバイスをもらい、機械の修理や軽微な修繕等は農園交流スタッフが行う等常に共有連携を行いました。

⑤人材確保のための取り組み

今後の後継者含め充実した部門にするためには、今後の事業拡大の一環で課題となっている人材育成の一つとして、体験型人材育成講座（Tsucito）を実施します。農業に関心がある人材を募集し、新しい村の未来を支える一人として活躍していけるような人材の確保を目指します。

⑤の報告

体験型人材育成講座（Tsucito）を実施しました。延べ人数：96人

⑥売上計画実績報告

ア 農作業受託 第25期農業受託作業売上実績表（単位：千円）

項目	受託作業内容	売上実績	前期実績
稲作作業受託	春作業	720	764
稲作作業受託	秋作業	2,827	2,346
その他	耕耘作業・草刈り等	1,617	962
合計		5,164	4,072

イ 水稻苗育苗 第25期水稻苗販売実績金額表（単位：千円）

項目	出芽苗	硬化苗	前期出芽苗	前期硬化苗
販売予定金額	7,017	13,960	7,452	13,086
合計金額	20,977		20,538	

ウ 稲作(作付け)実績 前期比較(実績) (面積 : a)

No	品種	実利用面積 (a)	30 kg/袋	実利用面積 (a)	30 kg/袋
		今期		前期	
1	コシヒカリ	1165.10	1,833	1278.29	1,963
2	特別栽培米コシヒカリ	197.07	282	156.52	234
3	特別栽培米ミルキークイーン	0	0	145.67	195
4	特別栽培米彩のきずな	208.21	205	92.70	48
5	満月もち	11.06	9	11.06	9
6	ほしじるし	136.17	156	260.67	
7	飼料用米	0	0		382
8	にじのきらめき	215.08	306	0	0
9	TR3344 試験栽培	97.59	157	0	0
	合計	2030.28	2,948	1944.91	2,831

エ 稲作(作付け)実績 第 25 期 2025 年度産米販売実績 (単位 : 千円)

No	主な販売先	玄米 30 kg/1 袋	売上実績	玄米 30 kg/1 袋	前期実績
		今期		前期	
1	日本工業大学 (株)NIT クリエイト	180	5,512	240	1,920
2	森の市場結 (外販、惣菜含む)	913	16,788	1,113	9,177
3	ふるさと納税	13	463	145	1,240
4	JA (業務用米他)	606	7,975	382	1,995
5	その他 (契約業務・満月もち・在庫)	250	4,914	95	586
6	その他 (奨励金)				2,830
	合計	1,962	35,652	1,975	17,748

オ 野菜(作付け)実績 第 25 期野菜生産実績 (単位 : 千円)

No	作物名	売上実績	前期実績
1	トウモロコシ、ブロッコリー、エダマメ、ジャガイモ、キャベツ、サツマイモ、トマト、ニンジン他	3,180	4,004
	合計	3,180	4,004

カ 農家支援・農業サービス事業全体売上実績表（単位：千円）

No	項目	内訳	売上実績	前期実績
1	農業受託	稲作	5,164	4,072
2	水稻苗育苗	出芽苗・硬化苗	20,977	20,538
3	村管理生産	稲作	35,652	17,748
4	野菜生産	野菜全般	3,180	4,004
5	その他	ふるさと納税他	906	1,785
	合計		65,879	48,147

施設の事業運営について

(3)農体験・農園交流事業

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 様々な手法を活用したグリーンツーリズム事業を展開することにより、都市住民との交流を積極的に図り、地域の活性化を図ります。
- イ 「農」のあるまちづくりの理念を広く浸透させていくため、新しい村の持つ自然環境の施設を活かした様々な生涯学習活動を展開します。
- ウ 事業展開にあたっては、市民参加や民間企業との連携により、事業の多面的展開及び拡大を図っていきます。

エ 利用者拡大に向けた農体験・農園交流事業の目標集客数

項 目	目標集客数
市民農園利用料	継続的に 90%以上（64 区画以上）
田植え・稲刈り体験	年 10 回以上・延べ参加者 500 人以上
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者 300 人以上
野菜収穫体験	延べ参加者 400 人以上
畑で婚活	年 5 回以上、延べ参加者 180 人以上
宮代産野菜を使用した料理講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上
1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 3 回以上、延べ参加者 30 人以上
ハーブ講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上

※田植え・稲刈り体験は町内小学校 4 校で実施する「田んぼの学校」を含みます。

- オ ほっつけ田の田植え、稲刈り体験事業における年間売上目標額は150万円以上、農業体験企画実施業務における年間売上目標額は300万円以上とします。

【第25期の目標、及び実施、施策事項報告】

①集落農園「結の里」利用の促進

集落農園「結の里」は、個人でも借りられる宮代型の市民農園です。都心からも近いので、町内だけでなく町外の方にも週末農園ライフを楽しんでいただけるよう、施設の適正な管理や利用者への指導の実施、ホームページでの利用者募集やポスターを作成しPRする事で、現在まで利用者は継続的に100%となっています。お問い合わせが多く需要が高かったため、令和元年度に、新たに5区画増設し、募集を行っています（平成30年度までは全67区画、現在は全72区画）。

なお、集落農園「結の里」では、互いに協力し合いながら農園ライフを楽しんでいただくため、設立当初からの五人組制度を継続するとともに、年に2回共同作付を開催し、それぞれの野菜の成長をみながらお互いに親睦を深めていただいています。

さらに、年に一度、森の市場「結」組合員の生産者を講師に迎えた勉強会等を開催し、技術の向上と利用者同士のコミュニケーションを促進しています。令和7年度も継続して行います。

①の報告

農園の利用者は継続的に 100%となりました。今年度は初めて畑を始める方が多かったため、ベテランの農園利用者にアドバイスをもらいながら作業をしている姿をよく見かけました。結の里会員の勉強会や班長会を実施し、結の精神に基づいた利用促進を行いました。

②(農業体験1) ほっつけ田植・稲刈り体験の実施

平成29年度より農園交流の中でも事業目標の中心としてきた「ほっつけ稲作体験」では、新しい村敷地内の掘上田「ほっつけ田」で農業体験を実施し、述べ1,400人を超える来園者数となり、企業、教育団体、親子連れのお客様で盛況でした。田植や稲刈りは昔ながらの手植え・手刈りでを行っています。令和7年度も継続して行います。

②の報告

稲作体験事業では農のあるまちづくりの理念を浸透させる農業体験の実施をしました。近年のお米在庫不足によりお米の注目度が高まりお米の大切さを学びたいという声を聞きました。例年に続き町内全小学校へ食育学習の出張や、都内小学校の郊外授業の体験も実施しました。

稲作体験実績値内容

□目標値：年間10回以上・延べ参加者500人以上

◇実績値

- ・田植え体験12回
- ・稲刈り体験13回
- ・延べ参加者1,458名 291%

※内訳（企業他930名・町内小学校264名 2回）

③(農業体験2) ブルーベリー摘み取り体験の実施

町内ブルーベリー農家にアドバイスを受け、ブルーベリーの木の剪定や土壌改良、圃場の拡大をし、収量や味の改善を行いました。収穫したブルーベリーは延べ参加者300名以上の摘み取り体験のほか、自社でブルーベリージャムとして製造販売を行い、町の桜市や産業祭等の外部出店、その他は町内給食センターに納品をし、町内小中学校の給食で提供されました。令和7年度も継続して実施いたします。

③の報告

ブルーベリー摘み取り体験を7月下旬～8月中旬まで実施しました。町内の学校給食で使用するブルーベリーを納品しました。

□目標値：延べ参加者300人以上

◇実績値

- ・延べ参加者 302名
- ・町内学校給食 110kg 納品

④(農業体験3) 野菜収穫体験の実施

6月と11月に野菜収穫体験を開催し、一般のお客様のほか学校教育・福祉団体や企業等、延べ参加者400名以上の方に体験していただきました。(さつまいも・じゃがいも) 今後は、直営農場での野菜の栽培技術を向上させ、新たに「ネギ」「落花生」等の収穫体験コースを増やしていきます。

④の報告

体験イベントを実施した際、じゃがバターや芋スティック販売を行いました。

□目標値：延べ参加者500人以上

◇実績値

- ・じゃがいも掘り体験 43名
- ・さつまいも掘り体験 409名 合計452名

⑤農作業をとり入れた婚活等交流事業の実施

婚活事業は平成22年より継続している大変人気の講座で、現在までに80回開催し、参加者2,700名以上、カップル成立は300組以上の実績があります。カップルになった後ご成婚の報告や、村の集会所でご両家親族のお顔合わせパーティ、ご成婚された後に宮代町へ居住・出産等、私達が思う以上の出来事や様々な温かいお言葉をいただいています。新しい村だけではなく、町内農家宅や東武動物公園でのイベントも実施し、地域の活性化を図っています。令和7年度以降は、参加者一人一人にゆっくり会話をしていただけるような今までと違う形のイベント含め年間5回以上、延べ参加者180名以上を目標に実施します。

⑤の報告

農作業を取り入れた婚活事業は、SNSでの発信を強化し募集を行いました。今期は5回募集をしたところ、1回は最少催行人員に達せず開催が出来ませんでした。実施したものは新しい村で農作業のほか、結生産者の農園に行き収穫体験や、東武動物公園とコラボした婚活を実施しました。

□目標値：年間5回・参加人員予定180人

◇実績値

- ・4回 延べ参加者88名 (カップル数12組)

⑥民間企業とタイアップした様々な交流体験事業の実施

食育を推進する民間企業とタイアップし、施設内の圃場や村の集会所を利用して収穫した農産物を使用する昼食作り、ざりがに釣り大会等を開催しています。

また、「農」を学び親しむ体験型講座「ほっつけ農遊塾」では、近隣農家での梨狩り体験やJ A南彩と共同でのお米の脱穀機・もみすり体験をし、農産物や農具に直接触れ合う事で農体験を総合的に楽しめる講座を開催しました。今後も継続して、年3回以上、延べ参加者3

0人以上を目標に実施します。

⑥の報告

稲作や野菜収穫等年6回に及ぶ農体験を開催し、お米を収穫してから食するまでの工程を学ぶなど、農を楽しみながら学ぶ講座を行いました。アグリ生産課で生産したトマトやナス等の収穫体験を実施しました。

□目標値：年間3回延べ人数30人以上

◇実績値：全6回 延べ参加者234名

⑦「農」のあるまちづくり講座実施事業

体験参加者へ「農」のあるまちづくり及び新しい村で販売している地場産野菜やハーブ等のPRを行い、リピーターの確保に努めました。

また、町内の活性化のため、町内商工業者と連携し講座を実施しました。森の市場「結」で販売している農産物等を活用した講座を実施することで地産地消の推進を目指してきました。これまで取り組んできたことに加え、新しい村で収穫されたハーブを活用した講座、町内商工業者や町内で活動している指導者等と連携した講座の拡充を実施していきます。数的な目標としては、地場産野菜を活用した料理講座を実施し、年間6回、延べ参加者60人以上、ハーブを活用した講座を実施し、年間6回、延べ参加者60人以上を目指します。

⑦の報告

地場産野菜を使用した親子料理教室を開催しました。キッチンハーブを使用したワークショップも開催しました。

地場産野菜を活用した料理講座

□目標値：年間6回延べ人数60人以上

◇実績値：全7回 延べ参加者64名

ハーブを活用した講座

□目標値：年間6回延べ人数60人以上

◇実績値：全12回 延べ参加者81名

⑧ハーブ園の圃場を拡大し、ハーブの収穫体験を実施

ハーブ園については、令和元年度にリニューアルをするとともに、農の家の前の水路沿いにラベンダーとローズマリー、タイム等を定植し、新たな観光名所にすべく努力をしてきたところです。ラベンダー通りのハーブはホームページ等でPRを強化し、収穫体験の実施やラベンダーオーナー制の実施、外部委託販売を行っています。

また、町と連携して、今後の新しい村のハーブ園の拡張に向けて、市民参加でアイデアを募集する等してまいりました。令和7年度も引き続き行っていきます。

⑧の報告

ハーブ園のハーブで摘みとり体験を実施しました。講座の講師や参加者の皆様にリクエストを伺い新たな種類のハーブを取り入れ栽培をしております。メンテナンスや収穫時にはホ

ホームページ等で一般の方を募集し6名の方にハーブボランティアとして活動していただきました。収穫体験は32名でした。

⑨ハーブの有効活用

平成29年度よりハーブの専門企業株式会社生活の木と業務委託契約を交わし、アドバイスを受け、平成30年度にリニューアルオープンをしたメディカルハーブガーデンではラベンダーやミントを商品とし、6次化商品の販売をしてきました。ハーブに関わる職員はハーブの知識を身につけ、その魅力を利用者に伝えるために資格を取得しています。(メディカルハーブコーディネーター・ハーブ&ライフコーディネーター各1名)。今後もハーブと新しい村をより身近に感じてもらう事で、新たな層の来園者との交流体験を行います。

⑨の報告

ハーブ園ではリースや蒸留体験など講座に使用したほか、自社で加工したハーブティを販売しました。商品はコモンマロウ&レモングラス・レモングラス&レモンマートル・エキナセア・ハーブスワッグ・ラベンダースティックです。

⑩バーベキューによる地産地消の推進

新しい村の環境に親しんでもらうとともに、地場産野菜を使用したバーベキューで地産地消の推進を図り、新たな訪問者を増やし、新しい村のファンを増やしていくことを目的に、平成30年9月から、芝生広場の一部を使用したバーベキューの利用を開始しました。

令和7年度はバーベキュー場でのキャンプ食材を追加し地産地消の推進に努めます。

⑩の報告

バーベキューの食材は、工房委託業者2社と連携したメニューを追加し地産地消の推進に努めました。

①農体験・農園交流事業運営業務

ア 実績集客数売上実績(金額単位:千円)

項 目	実績集客数	売上実績	前期実績
市民農園利用料	継続的に90%以上(64区画以上)	868	874
田植え・稲刈り体験	年25回・延べ参加者1,458人	1,960	2,140
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者302人	344	299
野菜収穫体験	延べ参加者452人	139	170
婚活交流	年4回、延べ参加者88人	494	67
宮代産野菜を使用した料理講座	年7回、延べ参加者64人	191	88

1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 6 回、延べ参加 234 人	473	467
ハーブ講座	年 12 回、延べ参加者 81 人	230	407
6 次化商品開発		439	289
その他講座		84	150
ハーブ売上		553	398
貸出備品、その他商品イベント等		1, 349	1, 706
合計		7, 124	7, 055

施設総合管理について

(1) 第25期年間スケジュール表

自然環境の保全と園内の美化に努め、来園者の安全確保と癒しの空間造りを目指しました。

No.	管理業務内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
1	草刈作業	○	○	○	○	○	○
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年 1 回）			○			
8	害虫駆除	○	○	○	○	○	○
9	特別清掃				○		
No.	管理業務内容	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
1	草刈作業	○	○				
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						○
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年 1 回）						
8	害虫駆除	○	○				
9	特別清掃					○	

第25期各事業部収益実績

(1) 第25期各事業部売上実績(金額単位:千円)

項目	勘定科目	収支計画	今期実績	増減
売上高	カフェ事業（地産地消課）	10,450	10,466	16
	直売所事業（地産地消課）	240,600	240,673	73
	外販事業（地産地消課）	17,650	17,939	289
	農業支援事業（アグリ生産課）	66,564	65,879	▲685
	グリーンツーリズム事業（総務・経理課）	7,100	7,124	24
	事業部計	342,364	342,081	▲283
	売上純損益金額（指定管理料含む）	111,000	119,678	
	販売費及び一般管理費合計	110,000	106,458	
	営業利益		13,220	
	営業損失	1,000		
	経常外損益	6,000	3,711	
	経常損益金額	7,000	16,931	

※社内資料としてアグリ生産課「材料費、労務費、経費」は事業部全体の販売費、及び一般管理費にて計上しました。各関係者、及び関係機関への提出用決算書類は、税理士事務所で作成されたものが全て適用となります。



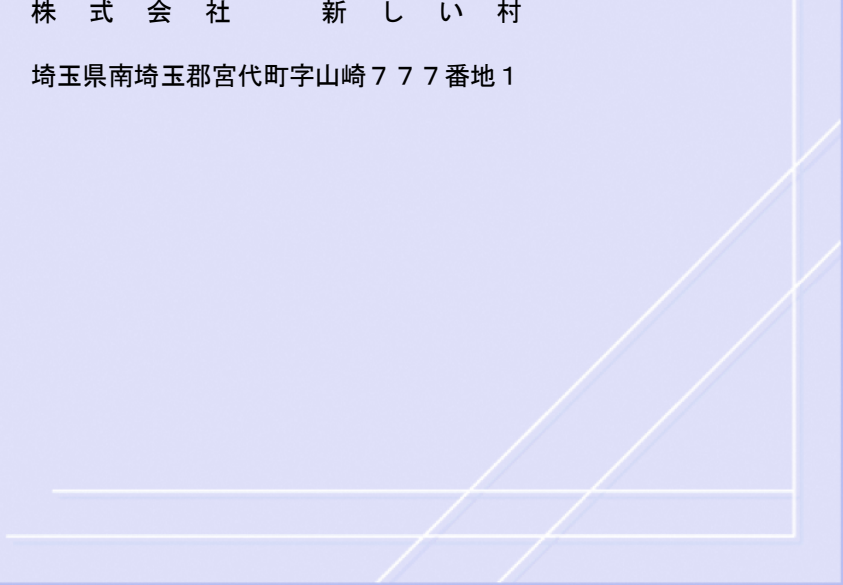
決 算 報 告 書

(第 25 期)

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

株 式 会 社 新 し い 村

埼玉県南埼玉郡宮代町字山崎 777 番地 1



貸借対照表

株式会社 新しい村

【 資 産 の 部 】

令和 8年 3月31日 現在

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【流 動 資 産】	【 88,965,664】	【 62,777,114】	【 26,188,550】	141.7
現 金	1,227,578	2,179,390	△951,812	56.3
預 金	40,352,467	32,486,502	7,865,965	124.2
売 掛 金	8,482,087	7,385,002	1,097,085	114.9
商 品	19,136,262	8,808,320	10,327,942	217.3
原 材 料	63,517	74,348	△10,831	85.4
仕 掛 品	14,570,793	7,617,795	6,952,998	191.3
貯 蔵 品	1,521,583	886,715	634,868	171.6
前 渡 金	2,941,696	2,941,696		100.0
仮 払 金	116,339	113,316	3,023	102.7
未 収 入 金	553,342	205,858	347,484	268.8
立 替 金		78,172	△78,172	
【固 定 資 産】	【 34,128,255】	【 37,121,393】	【 △2,993,138】	91.9
(有 形 固 定 資 産)	(31,865,518)	(34,736,264)	(△2,870,746)	91.7
建 物	52,205,668	52,205,668		100.0
減 価 償 却 累 計 額	△39,753,835	△37,845,892	△1,907,943	105.0
建 物 附 属 設 備	6,978,286	6,558,286	420,000	106.4
減 価 償 却 累 計 額	△6,490,740	△6,388,018	△102,722	101.6
構 築 物	14,298,745	13,938,745	360,000	102.6
減 価 償 却 累 計 額	△11,790,386	△11,282,038	△508,348	104.5
機 械 装 置	74,066,134	71,512,678	2,553,456	103.6
減 価 償 却 累 計 額	△60,453,303	△57,699,107	△2,754,196	104.8
車 両 運 搬 具	7,327,391	7,639,545	△312,154	95.9
減 価 償 却 累 計 額	△7,073,995	△7,639,533	565,538	92.6
工 具 器 具 備 品	22,686,210	22,871,396	△185,186	99.2
減 価 償 却 累 計 額	△20,318,544	△19,500,355	△818,189	104.2
一 括 償 却 資 産	183,887	364,889	△181,002	50.4
(無 形 固 定 資 産)	(772,065)	(772,065)		100.0
電 話 加 入 権	772,065	772,065		100.0
(投 資 そ の 他 の 資 産)	(1,490,672)	(1,613,064)	(△122,392)	92.4
出 資 金	223,900	223,900		100.0
差 入 保 証 金	600,000	500,000	100,000	120.0
保 険 積 立 金	601,696	813,212	△211,516	74.0
長 期 前 払 費 用	65,076	75,952	△10,876	85.7
資 産 合 計	123,093,919	99,898,507	23,195,412	123.2

貸借対照表

株式会社 新しい村

【負債・純資産の部】

令和 8年 3月31日 現在

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【流 動 負 債】	【 41,379,342】	【 32,719,053】	【 8,660,289】	126.5
買 掛 金	26,793,687	20,045,945	6,747,742	133.7
未 払 金	6,319,418	5,843,714	475,704	108.1
未 払 費 用	3,746,933	3,598,403	148,530	104.1
未 払 法 人 税 等	344,000	70,000	274,000	491.4
前 受 金		32,500	△32,500	
預 り 金	666,604	729,491	△62,887	91.4
仮 受 金		75,000	△75,000	
未 払 事 業 税 等	94,600		94,600	
未 払 消 費 税 等	3,414,100	2,324,000	1,090,100	146.9
【固 定 負 債】	【 4,284,000】	【 6,236,000】	【 △1,952,000】	68.7
長 期 借 入 金	4,284,000	6,236,000	△1,952,000	68.7
負 債 合 計	45,663,342	38,955,053	6,708,289	117.2
【株 主 資 本】	【 77,430,577】	【 60,943,454】	【 16,487,123】	127.1
資 本 金	5,000,000	5,000,000		100.0
(利 益 剰 余 金)	(72,580,577)	(56,093,454)	(16,487,123)	129.4
そ の 他 利 益 剰 余 金	72,580,577	56,093,454	16,487,123	129.4
別 途 積 立 金	43,000,000	43,000,000		100.0
繰 越 利 益 剰 余 金	29,580,577	13,093,454	16,487,123	225.9
自 己 株 式	△150,000	△150,000		100.0
純 資 産 合 計	77,430,577	60,943,454	16,487,123	127.1
負 債 ・ 純 資 産 合 計	123,093,919	99,898,507	23,195,412	123.2

損益計算書

株式会社 新しい村

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【売 上 高】	【 370,812,429】	【 347,878,622】	【 22,933,807】	106.6
売 上 高	269,077,880	261,826,495	7,251,385	102.8
委 託 料 収 入	28,730,916	30,850,916	△2,120,000	93.1
農 園 交 流 売 上 高	7,124,332	7,054,522	69,810	101.0
農 業 法 人 売 上 高	65,879,301	48,146,689	17,732,612	136.8
【売 上 原 価】	【 251,133,999】	【 251,074,119】	【 59,880】	100.0
期 首 棚 卸 高	8,882,668	5,091,075	3,791,593	174.5
仕 入 高	203,977,982	198,010,868	5,967,114	103.0
当 期 製 品 製 造 原 価	57,473,128	56,854,844	618,284	101.1
期 末 棚 卸 高	△19,199,779	△8,882,668	△10,317,111	216.1
売 上 総 利 益 金 額	119,678,430	96,804,503	22,873,927	123.6
【販売費及び一般管理費】	【 106,458,694】	【 110,946,251】	【 △4,487,557】	96.0
営 業 利 益 金 額	13,219,736	△14,141,748	27,361,484	
【営 業 外 収 益】	【 3,738,006】	【 6,158,393】	【 △2,420,387】	60.7
受 取 利 息	35,101	17,540	17,561	200.1
受 取 配 当 金	2,339	2,339		100.0
雑 収 入	3,700,566	6,138,514	△2,437,948	60.3
【営 業 外 費 用】	【 26,168】	【 20,629】	【 5,539】	126.9
支 払 利 息 割 引 料	3,172	8,124	△4,952	39.0
支 払 保 証 料	10,876		10,876	
雑 損 失	12,120	12,505	△385	96.9
経 常 利 益 金 額	16,931,574	△8,003,984	24,935,558	
【特 別 損 失】	【 3】	【 17,738】	【 △17,735】	0.0
固 定 資 産 除 却 損	3	17,738	△17,735	0.0
税引前当期純利益金額	16,931,571	△8,021,722	24,953,293	
法人税、住民税及び事業税	444,448	70,000	374,448	634.9
当 期 純 利 益 金 額	16,487,123	△8,091,722	24,578,845	

販売費及び一般管理費

株式会社 新しい村

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
役 員 報 酬	5,645,500	5,894,500	△249,000	95.8
給 与 手 当	15,171,323	17,669,379	△2,498,056	85.9
雑 給	36,521,831	31,305,138	5,216,693	116.7
賞 与		608,045	△608,045	
退 職 金		661,800	△661,800	
支 払 報 酬	180,000	180,000		100.0
法 定 福 利 費	6,372,224	6,633,194	△260,970	96.1
福 利 厚 生 費	614,301	612,857	1,444	100.2
外 注 費	3,197,711	4,091,480	△893,769	78.2
旅 費 交 通 費	976,039	1,049,226	△73,187	93.0
通 信 費	1,236,370	1,411,757	△175,387	87.6
交 際 費	709,723	936,182	△226,459	75.8
減 価 償 却 費	3,800,130	5,094,798	△1,294,668	74.6
賃 借 料	404,891	243,988	160,903	165.9
保 険 料	745,159	773,430	△28,271	96.3
修 繕 費	2,505,855	4,207,543	△1,701,688	59.6
水 道 光 熱 費	4,795,762	4,693,541	102,221	102.2
燃 料 費	707,950	672,654	35,296	105.2
消 耗 品 費	3,592,845	5,301,163	△1,708,318	67.8
租 税 公 課	693,900	650,950	42,950	106.6
運 賃	251,294	329,695	△78,401	76.2
荷 造 包 装 費	1,249,959	1,083,824	166,135	115.3
事 務 用 品 費	180,186	190,728	△10,542	94.5
広 告 宣 伝 費	2,414,686	2,287,262	127,424	105.6
支 払 手 数 料	3,031,529	3,352,532	△321,003	90.4
諸 会 費	122,400	92,764	29,636	131.9
新 聞 図 書 費	77,904	81,989	△4,085	95.0
リ ー ス 料	3,603,400	3,377,400	226,000	106.7
会 議 費	24,280	68,542	△44,262	35.4
イ ベ ン ト 費	158,447	59,468	98,979	266.4
研 修 費	13,300	304,514	△291,214	4.4
寄 付 金	2,955		2,955	
廃 棄 処 分 費	456,722	259,206	197,516	176.2
雑 費	7,000,118	6,766,702	233,416	103.4
合 計	106,458,694	110,946,251	△4,487,557	96.0

製造原価報告書

株式会社 新しい村

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【材 料 費】	【 12,393,645】	【 9,538,226】	【 2,855,419】	129.9
主 要 材 料 費	12,393,645	9,538,226	2,855,419	129.9
【労 務 費】	【 31,129,774】	【 31,798,789】	【 Δ669,015】	97.9
賃 金 給 料	20,880,196	19,519,310	1,360,886	107.0
雑 給	5,890,427	7,184,244	Δ1,293,817	82.0
賞 与		340,446	Δ340,446	
法 定 福 利 費	3,939,823	3,553,326	386,497	110.9
福 利 厚 生 費	419,328	1,201,463	Δ782,135	34.9
【外 注 加 工 費】	【 1,806,457】	【 2,075,252】	【 Δ268,795】	87.0
外 注 加 工 費	1,806,457	2,075,252	Δ268,795	87.0
【経 費】	【 19,096,250】	【 15,091,073】	【 4,005,177】	126.5
旅 費 交 通 費	541,504	457,148	84,356	118.5
減 価 償 却 費	4,285,915	5,264,253	Δ978,338	81.4
保 険 料	430,618	488,028	Δ57,410	88.2
修 繕 費	2,311,266	1,133,380	1,177,886	203.9
水 道 光 熱 費	1,307,957	1,292,699	15,258	101.2
燃 料 費	1,827,379	1,577,535	249,844	115.8
消 耗 品 費	7,626,248	4,144,535	3,481,713	184.0
租 税 公 課	24,000	24,000		100.0
荷 造 包 装 費	305,065	360,046	Δ54,981	84.7
支 払 手 数 料	214,030	223,368	Δ9,338	95.8
諸 会 費	44,781	44,781		100.0
リ ー ス 料	33,300	33,300		100.0
雑 費	144,187	48,000	96,187	300.4
当 期 総 製 造 費 用	64,426,126	58,503,340	5,922,786	110.1
期 首 仕 掛 品 棚 卸 高	7,617,795	5,969,299	1,648,496	127.6
期 末 仕 掛 品 棚 卸 高	Δ14,570,793	Δ7,617,795	Δ6,952,998	191.3
当 期 製 品 製 造 原 価	57,473,128	56,854,844	618,284	101.1

株主資本等変動計算書

株式会社 新しい村

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

	株主資本						純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	5,000,000	43,000,000	13,093,454	56,093,454	△150,000	60,943,454	60,943,454
当期変動額							
当期純利益			16,487,123	16,487,123		16,487,123	16,487,123
当期変動額合計	－	－	16,487,123	16,487,123	－	16,487,123	16,487,123
当期末残高	5,000,000	43,000,000	29,580,577	72,580,577	△150,000	77,430,577	77,430,577

個別注記表

株式会社 新しい村

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 法人税法の規定による定率法

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法

無形固定資産 法人税法の規定による定額法

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済み株式の数

前期末株式数（発行済普通株式）

当期増加株式数（発行済普通株式）

当期減少株式数（発行済普通株式）

当期末株式数（発行済普通株式）

前期末株式数（発行済優先株式）

当期増加株式数（発行済優先株式）

当期減少株式数（発行済優先株式）

当期末株式数（発行済優先株式）

当 期

前 期

100株

100株

100株

100株

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの情報

一株当たりの当期純利益

一株当たりの純資産額

当 期

前 期

169,970.34円

△83,419.81円

798,253.37円

628,283.03円

その他の注記

議案について

令和 8年 6月25日開催の定時株主総会において、上記の議案は承認可決されております。

監 査 報 告 書

監査役は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの
第25期営業年度の貸借対照表、損益計算書及び附属明細書等の関
係書帳簿、証憑書類等を監査いたしました結果、適法かつ正確であ
ることを認めます。

令和8年5月19日

株式会社 新しい村

監 査 役 高 橋 博 

監 査 役 金子莉 

□議案第 1 号 取締役任期満了に伴う 5 名改選の件

任期: 令和 8 年 6 月 25 日から第 27 回株主総会終結まで

候補者氏名
渋谷 龍弘 氏 (再任)
平林 信隆 氏 (新)
浅野 寛長 氏 (新)
矢部 淳 氏 (新)
大塚 心午 氏 (新)

□議案第 2 号 監査役任期満了に伴う 1 名改選の件

任期:令和 8 年 6 月 25 日から第 29 回株主総会終結まで

候補者氏名
矢部 豊彦 氏 (新)

□議案第 3 号 会計参与任期満了に伴う 1 名改選の件

任期:令和 8 年 6 月 25 日から第 27 回株主総会終結まで

候補者氏名
税理士法人 英智 代表社員 青柳 淳一 氏 (再任)

□議案第 4 号 第 26 期経営方針(事業計画案)の件

第 2 6 期事業計画書案

株式会社 新しい村

企業理念 経営基本方針

(株)新しい村の今期は、町の指定管理者としての5カ年契約期間内の4カ年度を迎えます。

従業員一丸となり宮代町の「農」のあるまちづくり政策推進、並びに指定管理者としての役割と、要求水準基本要項を全ての事業部が十分理解し、お客様第一主義と現場主義をモットーに地域社会に愛され頼まれる健全な会社経営を目指します。更に5カ年で掲げた業務要求水準に沿った事業計画を達成できる様邁進して参ります。

企業理念

わたしは、「農」のあるまちづくりの理念を理解し、政策実現のできる従業員を目指します。

わたしは、お客様に心から感謝の気持ちを表現できる従業員を目指します。

わたしは、お客様に心から気配りのできる従業員を目指します。

わたしは、地域社会に愛され信頼される従業員を目指します。

わたしは、仕事に対し常に問題意識を持ち行動できる従業員を目指します。

経営基本方針

ア 新しい村が「農」のあるまちづくりの拠点施設であることを理解し、宮代町と連携、協力を図り、地産地消の推進と農風景の維持保全に努めて参ります。

イ 新しい村を拠点とした交流の輪を更に広げ、「農」に親しむ町民を増やし、新たな価値の創造構築に繋げて参ります。

ウ 指定管理者としての役割の下、宮代町の農業を将来に渡し、守り続けるという使命感と責任感を持って、事業部内の管理運営に努めて参ります。

エ 施設利用者の平等、公平な利用の確保等、宮代町が定める「管理運営の原則」に沿った施設の運営に努めて参ります。

オ スタッフ全員が、常に施設の目的、役割を念頭におき、理念に沿って施設管理及び事業運営を行って参ります。

以上の経営基本方針のもと、全事業部が指定管理者業務要求水準に基づき町との施策共有を図りながら具現化に向け安定した会社運営に努めて参ります。

今期も運営にあたっての施策としましては、大きくは取締役会の充実と、現場で働く従業員との社員定例会議を有効に活用し、スタッフとのコミュニケーションを図りながら状況確認による的確な判断の下で、業務改善に努めて参ります。

また、(株)新しい村は宮代町の指定管理者であることから、従来通り町役場担当部署、及び新しい村事業部スタッフとの月に一度の経営会議の継続は不可欠で、毎月の社内運営状況確認や事業計画進捗度に関しての助言や運営面での共有を図り、より良い施設環境を最大限に活かし、お客様の満足度を高めて参ります。

更に、今後も加速が予想されます農業従事者の高齢化と後継者不足により社内農業支援事業部におきましては、「水稻苗、稲作、農作業受託業務」等の拡大体制を視野に入れ日々の業務を行って参ります。昨年度より町と連携した農業用ドローンの投入により効率化なスマート農業を実施しております。今後見込まれる大規模化への対応策として別の水稻栽培方法も取り入

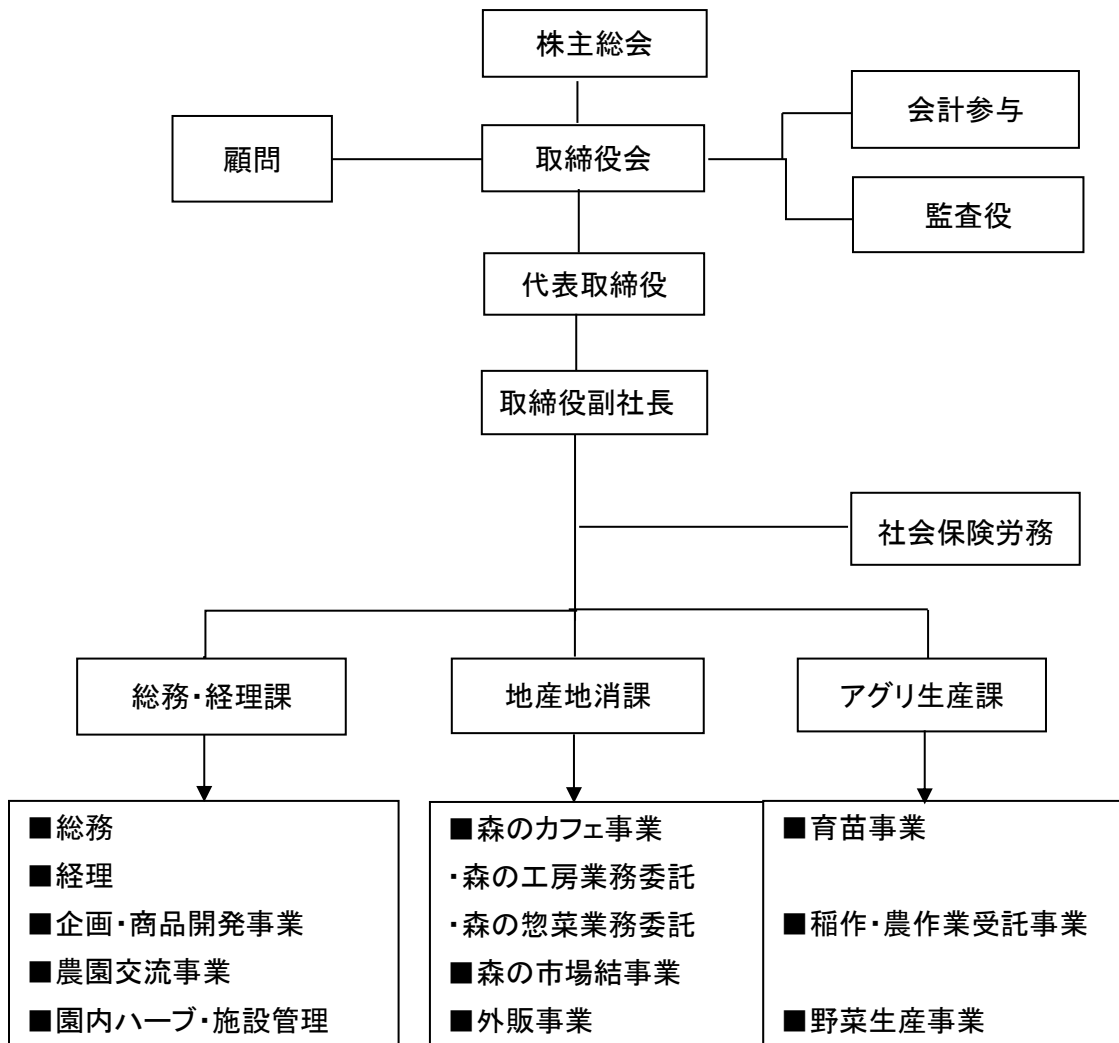
れていけるよう試験的な研究を関連機関と相談し、気候変動やコスト削減、技術向上に取り組んで参ります。

同時に森のカフェは、地産地消推進を常に心がけ運営に努めていますが、森の市場「結」に於きましては、課題となっている現状生産者の高齢化と後継者不足により出荷量は減少傾向にあります。

現状打開策としましては、常に担い手の発掘の推進や現生産者の皆様と調整し、売場展開を図り、お客様に支持される直売所を目指し、生産者、商業者、及び従業員の生活の安定を目指した運営を図って参ります。直売所以外でも地場産野菜をPR出来るように観光事業でも様々なイベントを実施する予定です。食育に取り組んでいる関連企業と共同で行うイベントや町内外のイベントでの参加・販売も積極的に行うよう取り組んで参ります。

改めて、株式会社新しい村に求められる役割は町の第三セクターであり、町の政策である「農」のあるまちづくりを前提とした活気溢れる施設運営と信頼されるべく健全な会社経営に向け、「お客様、生産者、商業者、関係機関」と情報共有を図り今期も進めて参ります。

【株式会社新しい村組織図】



施設の事業運営について

(1)地産地消モデル事業(森の市場「結」、森のカフェ運営)

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 宮代町の「農」のある環境を最大限に活かし、農産物直売所としての更なる活性化を図ります。
- イ 自然豊かなロケーションを最大限に活かし、直売所とマッチングした憩いの場としてお客様に利用していただく施設を目指します。
- ウ 町内、町外のお客様へ、安心・安全な農産物を地産地消の基本理念に基づき、食材提供の場としての販売所づくりを常に心がけます。

【令和8年度事業計画内容】

①森の市場「結」運營業務

- ア 商品の地場産率を維持継続(売上高2億4,000万円以上)
 - i 生産者とのコミュニケーションによる地場産野菜の確保
 - ii 農産物集荷サービスによる商品確保
- イ 安心・安全な商品の提供
- ウ 職員教育
- エ 学校給食センター及び大型施設等への納品(売上高1,500万円以上)
- オ 効果的なPR活動の実施(社外での販売・出店年5回)

②森のカフェ運營業務

森のカフェの目的は、お客様に自然環境に恵まれた環境の中でゆっくり料理を味わっていただくことは最もですが、他に宮代町の季節ごとにとれた新鮮な農産物のおいしさを味わい、宮代産農産物への興味を深め、食を通して宮代町の「農」のある風景を感じていただくことにあります。令和8年度の事業計画は以下のとおりです。

- ア 新商品開発(新規メニューの考案や商品リニューアル等)
- イ 売上額の向上(売上額1,000万円以上)

③森の工房運營業務

森の工房は、カフェ同様、宮代町の季節ごとに採れた新鮮な農産物のおいしさを味わっていただくことで、宮代産農産物への興味を深めていただき、食を通して宮代町の実風景の保全等、「農」のあるまちづくりを推進していくことを目的としています。

また、規格外の農産物を有効利用することでフードロスの減少にもつなげています。

令和6年9月よりパン・ピザ部門を「㈱ケイズハウジング」、令和5年8月より惣菜部門を「アンカルク株式会社」に協力をいただき、新鮮な宮代産の農産物にこだわったパンやピザ、惣菜はお客様からも大変好評です。令和8年度も引き続き「㈱ケイズハウジング」、「アンカルク株式会社」へ再委託を行い、お客様と生産者に喜ばれる商品販売を手がけるとともに、会社の安定経営に資するよう努めていきます。

④生産者組合会議運営協力業務

森の市場結では、生産者自らが、より良い農作物の生産を学び、互いに情報を交換し、農家と商業者とが交流を図り、組合全体で森の市場結の売上向上に努めます。

ア 年4回の運営会議

イ 年2回以上の生産者組合だよりの発行

⑤利用者会議運営業務

弊社では平成28年度より、より良い「直売所、カフェ運営」とお客様との交流機会の増を目的に「消費者モニター」を公募し年4回（11月、2月、5月、8月）開催しています。

また、モニター会議とは別に多くのお客様からの情報提供を得られる一つの手段として、森の市場「結」及び森のカフェには、アンケート用紙と掲示板を設置し、お客様からの声を積極的にお聞きし、森の市場「結」、森のカフェ、森の工房の運営改善につなげています。令和8年度も引き続き行います。

⑥生産者集荷・商品宅配サービス業務

少子高齢化の流れは森の市場「結」も同様です。高齢化に伴い、運転免許の返納や家族の独立等によって、圃場での生産はできるものの出荷ができない農家が増えています。

また、お客様についても「買物難民」と言う言葉があるように、移動が困難な高齢者がお米や野菜等、重い農産物の買い物に困っているケースが増えています。弊社ではこうした課題に対応するため、平成29年度より「集荷宅配サービス」に取り組んでいます。令和8年度の集荷サービスは、生産者と協議し、ルールを設けて計画的に集荷を行い、少しでも多くの地元農産物・商業製品が並ぶように努めて参ります。お客様の宅配サービスでは、生産者と再度検討し、町内のイベント時や地域コミュニティ関連者と調整し、野菜販売を行います。時期に関しては、基本的には地場産野菜をメインとし生産者の収穫時期等の確認をして実施します。

⑦取り組みの目標値

森の市場結は単なる直売所ではなく、地域の農業と消費者をつなぐ架け橋となることを目指し、地元の農産物を中心に据え、その魅力を最大限に引き出す売場づくりに取り組んでいます。別途、取り組み計画表を作成し、スタッフ全員で意識をしながら四半期毎の進捗確認と、最終四半期には次年度の予定の作成を行います。

ア 新規生産者・商業者の獲得(5名)

イ 買取生産者・仲買業者獲得目標(2社)

ウ 地場産を明確化した売り場レイアウト変更

⑦売上計画（単位：千円）

ア 森の市場「結」 第26期月別売上計画表（単位：千円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	21,350	22,160	19,750	15,120	21,520	21,860

月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	R 9 / 1 月	2 月	3 月
売上予算	19,860	19,910	24,380	15,860	19,520	19,800

イ 森の市場「結」 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比（単位：千円）

項 目	売上予算	売上構成比	前期実績	前期対比
上半期	121,760	50.5%	121,801	99.9%
下半期	119,330	49.5%	118,872	100.4%
年間合計	241,090	100.0%	240,673	100.2%

ウ 外販事業 第26期月別売上計画表（単位：千円）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
売上予算	1,350	1,790	1,630	1,250	830	1,600
月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	R 9 / 1 月	2 月	3 月
売上予算	1,340	1,440	2,120	1,540	1,630	1,430

エ 外販事業 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比（単位：千円）

項 目	売上予算	売上構成比	前期実績	前期対比
上半期	8,450	47.1%	8,392	100.7%
下半期	9,500	52.9%	9,547	99.5%
年間合計	17,950	100.0%	17,939	100.1%

オ 森のカフェ 第26期月別売上計画表（単位：千円）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
売上予算	1,200	1,200	900	800	900	950
月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	R 9 / 1 月	2 月	3 月
売上予算	850	1,000	600	500	700	1,000

カ 森のカフェ 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比（単位：千円）

項 目	売上予算	売上構成比	前期実績	前期対比
上半期	5,950	56.1%	5,806	102.5%
下半期	4,650	43.9%	4,660	99.8%
年間合計	10,600	100.0%	10,466	101.3%

キ 地産地消事業全体売上計画表（単位：千円）

項 目	売上概算	前期実績	前期対比
森の市場結	241,090	240,673	100.2%
外販	17,950	17,939	100.1%
森のカフェ	10,600	10,466	101.3%
合計	269,640	269,078	100.2%

施設の事業運営について

(2)農家支援・農業サービス事業(育苗、農産物生産、圃場管理)

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 「農」のある環境を維持再生していくための、農家に対する支援対策事業を行います。
- イ 関係機関と連携をとり「農」のあるまちづくり政策に基づいた農業支援事業としての社内受け入れ態勢の確立を目指します。
- ウ 自社生産部門の収益増、直売所の課題である農産物出荷量減の一部解消、及びその他関係取引施設への安定供給を図りながら、年間を通しての本格的な野菜生産を行います。
- エ 中長期的に、町との連携を図りながら、遊休農地を活かした、新規就農者及び農業担い手研修の育成拠点施設を視野に入れたシステムの構築を目指します。

【令和8年度事業計画内容】

①水稲苗生産販売の強化

品質及び育苗管理の省力化に成果のあう「全面プール育苗方式」を採用しています。

- ア 引き続き、水稲苗の生産枚数は30,000枚以上を目標とします。
- イ 安心安全な米作りのために、種子消毒は温湯消毒で行います。

②育苗施設の有効活用

水稲苗育苗パイプハウスを利用して、以下の有効活用を行っていきます。

- ア 育苗用パイプハウスの貸出
- イ 野菜の育苗施設として活用しています。(週末農業サークルツチート用野菜等)
- ウ パイプハウスは、台風や降雪への対策を講じ、周辺を防草シートで覆う等適切に管理します。

③自社生産農産物の安定供給

- ア 水管理や施肥を工夫し、継続して高品質な自社生産米の生産を継続して生産します。
- イ 圃場ごとの作付計画及び管理シートを作成するとともに、化学肥料及び化学農薬の低減に努め、安心安全な高品質野菜の販売を行います。
- ウ 品種別に特別栽培米の生産比重を高め販売量の増大や販売企画の工夫を行います。

④農園交流事業との連携

新しい村敷地内の収穫体験用圃場は、農園交流職員と協力して、アグリ生産課の職員が一部の畑作物の育苗、定植を行っています。また、田んぼの畔塗りや代掻き作業等専門の農業技術を要する部分についてもアグリ生産課職員が作業を行っています。さらに農園交流事業で使用する農機具と技術を共有連携しています。令和8年度も引き続き行っていきます。

⑤人材確保のための取り組み

今後の後継者含め充実した部門にするためには、今後の事業拡大の一環で課題となってい

る人材育成の一つとして、体験型人材育成講座（Tsucito）を令和7年度より実施しており、毎回参加者の方にはご好評をいただいております。農業に関心がある人材を募集し、新しい村の未来を支える一人として活躍していけるような人材の確保を今後も継続して行います。

⑥売上計画金額（単位：千円、面積：a）

ア 農作業受託 第26期農業受託作業売上計画表（単位：千円）

項目	受託作業内容	売上予算	前期実績
稲作作業受託	春作業	750	720
稲作作業受託	秋作業	2,300	2,827
その他	耕耘作業・草刈り等	850	1,617
合計		3,900	5,164

イ 水稻苗育苗計画 第26期水稻苗販売予定金額表（単位：千円）

項目	出芽苗	硬化苗	前期出芽苗	前期硬化苗
販売予定金額	9,808	18,595	7,017	13,960
合計金額	28,403		20,977	

ウ 稲作（作付け）計画 第26期2026年度産米品種別稲作及び収量計画表

No	品種	実利用面積（a）	30 kg/袋
1	特別栽培米コシヒカリ	197	295
2	コシヒカリ	868	1,302
3	にじのきらめき	742	1,113
4	ほしじるし	136	204
5	TR3344 試験栽培	119	178
6	満月もち	11	16
7	ZR1	62	93
	合計	2135	3,201

エ 稲作（作付け） 前期実績

No	品種	実利用面積（a）	30 kg/袋
1	コシヒカリ	1,165.10	1,833
2	特別栽培米コシヒカリ	197.07	282
3	特別栽培米彩のきずな	208.21	205
4	満月もち	11.06	9
5	ほしじるし	136.17	156
6	にじのきらめき	215.08	306
7	TR3344 試験栽培	97.59	157
	合計	2030.28	2,948

オ 稲作（作付け） 第 26 期 2026 年度産米販売計画表（単位：千円）

No	主な販売先	玄米 30 kg/1 袋	売上予算
1	日本工業大学（㈱NIT クリエイト）	400	4,400
2	森の市場結（外販、惣菜含む）	1,200	13,200
3	ふるさと納税	100	1,100
4	その他（契約業務・満月もち・在庫）	1,501	16,511
	合計	3,201	35,211

カ 稲作（作付け） 前期実績（単位：千円）

No	主な販売先	玄米 30 kg/1 袋	売上予算
1	日本工業大学（㈱NIT クリエイト）	180	5,512
2	森の市場結（外販、惣菜含む）	913	16,788
3	ふるさと納税	13	463
4	JA（業務用米）	606	7,975
5	その他（契約業務・満月もち・在庫）	250	4,914
	合計	1,962	35,652

キ 野菜（作付け）計画 第 26 期野菜生産計画表（単位：千円）

No	作物名	収穫時期	売上予算
1	トウモロコシ	6 月下旬～7 月下旬	600
2	ブロッコリー	10 月下旬～11 月中旬	300
3	エダマメ	6 月下旬～	700
4	キャベツ	10 月上旬～	300
5	サツマイモ	10 月～	300
6	トマト	6 月中旬～	400
7	ニンジン	11 月上旬～	300
	（前期合計実績）		3,180
	合計		2,900

圃場	作物名	品種	面積（a）
西原圃場 1	エダマメ	湯上り娘	15
	サツマイモ	紅はるか・シルクス イート	10
	ブロッコリー	サマードーム	10
西原圃場 2	トウモロコシ	オオモノ	10
	ニンジン	愛紅、彩紅	10
	キャベツ	007	10
山崎	トマト	麗月	2

ク 野菜（作付け） ツチート計画（単位：千円）

No	主な販売先	（第3・4期）売上予算	前期（第1・2期）実績
1	参加費合計	240	323
2	作物売上	100	352
	合計	340	675

ケ 農家支援・農業サービス事業全体売上計画表（単位：千円）

No	項目	内訳	売上予算
1	農業受託	稲作	3,900
2	水稻苗育苗	出芽苗・硬化苗	28,403
3	村管理生産	稲作	35,211
4	野菜生産	野菜全般	2,900
5	野菜ツチート	参加費・作物売上	340
	合計		70,754

施設の事業運営について

(3)農体験・農園交流事業

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 様々な手法を活用したグリーンツーリズム事業を展開することにより、都市住民との交流を積極的に図り、地域の活性化を図ります。
- イ 「農」のあるまちづくりの理念を広く浸透させていくため、新しい村の持つ自然環境の施設を活かした様々な生涯学習活動を展開します。
- ウ 事業展開にあたっては、市民参加や民間企業との連携により、事業の多面的展開及び拡大を図っていきます。

エ 利用者拡大に向けた農体験・農園交流事業の目標集客数

項 目	目標集客数
市民農園利用料	継続的に 90%以上（64 区画以上）
田植え・稲刈り体験	年 10 回以上・延べ参加者 500 人以上
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者 300 人以上
野菜収穫体験	延べ参加者 400 人以上
畑で婚活	年 5 回以上、延べ参加者 180 人以上
宮代産野菜を使用した料理講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上
1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 3 回以上、延べ参加者 30 人以上
ハーブ講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上

※田植え・稲刈り体験は町内小学校 4 校で実施する「田んぼの学校」を含みます。

- オ ほっつけ田の田植え、稲刈り体験事業における年間売上目標額は150万円以上、農業体験企画実施業務における年間売上目標額は300万円以上とします。

【令和 8 年度事業計画内容】

①集落農園「結の里」利用の促進

集落農園「結の里」は、個人でも借りられる宮代型の市民農園です。都心からも近いので、町内だけでなく町外の方にも週末農園ライフを楽しんでいただけるよう、施設の適正な管理や利用者への指導の実施、ホームページでの利用者募集やポスターを作成しPRする事で、現在まで利用者は継続的に 100%となっています。お問い合わせが多く需要が高かったため、令和元年度に、新たに5区画増設し、募集を行っています（平成30年度までは全67区画、現在は全72区画）。

なお、集落農園「結の里」では、互いに協力し合いながら農園ライフを楽しんでいただくため、設立当初からの五人組制度を継続するとともに、年に2回共同作付を開催し、それぞれの野菜の成長をみながらお互いに親睦を深めていただいています。

さらに、年に一度、森の市場「結」組合員の生産者を講師に迎えた勉強会等を開催し、技術の向上と利用者同士のコミュニケーションを促進しています。令和8年度も継続して行います。

②(農業体験1) ほっつけ田植・稲刈り体験の実施

平成29年度より農園交流の中でも事業目標の中心としてきた「ほっつけ稲作体験」では、新しい村敷地内の掘上田「ほっつけ田」で農業体験を実施し、述べ1,400人を超える来園者数となり、企業、教育団体、親子連れのお客様で盛況でした。田植や稲刈りは昔ながらの手植え・手刈りでを行っています。令和8年度も継続して行います。

③(農業体験2) ブルーベリー摘み取り体験の実施

町内ブルーベリー農家にアドバイスを受け、ブルーベリーの木の剪定や土壌改良、圃場の拡大をし、収量や味の改善を行いました。収穫したブルーベリーは延べ参加者300名以上の摘み取り体験のほか、自社でブルーベリージャムとして製造販売を行い、町の桜市や産業祭等の外部出店、その他は町内給食センターに納品をし、町内小中学校の給食で提供されました。令和8年度も継続して実施いたします。

④(農業体験3) 野菜収穫体験の実施

6月と11月に野菜収穫体験を開催し、一般のお客様のほか学校教育・福祉団体や企業等、延べ参加者400名以上の方に体験していただきました。(さつまいも・じゃがいも) 令和8年度は他企業と連携した収穫体験を実施します。

⑤農作業をとり入れた婚活等交流事業の実施

婚活事業は平成22年より継続している大変人気の講座で、現在までに86回開催し、参加者2,700名以上、カップル成立は300組以上の実績があります。カップルになった後ご成婚の報告や、村の集会所でご両家親族のお顔合わせパーティ、ご成婚された後に宮代町へ居住・出産等、私達が思う以上の出来事や様々な温かいお言葉をいただいています。新しい村だけではなく、町内農家宅や東武動物公園でのイベントも実施し、地域の活性化を図っています。令和8年度以降は、新しい村の中だけではなく、町内の生産者と調整をした農体験イベント含め年間5回以上、延べ参加者180名以上を目標に実施します。

⑥民間企業とタイアップした様々な交流体験事業の実施

食育を推進する民間企業とタイアップし、施設内の圃場や村の集会所を利用して収穫した農産物を使用する昼食作り、ざりがに釣り大会等を開催しています。

また、「農」を学び親しむ体験型講座「ほっつけ農遊塾」では、近隣農家での梨狩り体験やJA南彩と共同でのお米の脱穀機・もみすり体験をし、農産物や農具に直接触れ合う事で農体験を総合的に楽しめる講座を開催しました。今後も継続して、年3回以上、延べ参加者30人以上を目標に実施します。

⑦「農」のあるまちづくり講座実施事業

体験参加者へ「農」のあるまちづくり及び新しい村で販売している地場産野菜やハーブ等のPRを行い、リピーターの確保に努めました。

また、町内の活性化のため、町内商工業者と連携し講座を実施しました。森の市場「結」で販売している農産物等を活用した講座を実施することで地産地消の推進を目指してきま

した。これまで取り組んできたことに加え、新しい村で収穫されたハーブを活用した講座、町内商工業者や町内で活動している指導者等と連携した講座の拡充を実施していきます。数的な目標としては、地場産野菜を活用した料理講座を実施し、年間6回、延べ参加者60人以上、ハーブを活用した講座を実施し、年間6回、延べ参加者60人以上を目指します。

⑧ハーブ園の圃場を拡大し、ハーブの収穫体験を実施

ハーブ園については、令和元年度にリニューアルをするとともに、農の家の前の水路沿いにラベンダーとローズマリー、タイム等を定植し、新たな観光名所にすべく努力をしてきたところです。ラベンダー通りのハーブはホームページ等でPRを強化し、収穫体験の実施やラベンダーオーナー制の実施、外部委託販売を行っています。

また、町と連携して、今後の新しい村のハーブ園の拡張に向けて、市民参加でアイデアを募集する等してまいりました。令和8年度も引き続き行っていきます。

⑨ハーブの有効活用

平成29年度よりハーブの専門企業株式会社生活の木と業務委託契約を交わし、アドバイスを受け、平成30年度にリニューアルオープンをしたメディカルハーブガーデンではラベンダーやミントを商品とし、6次化商品の販売をしてきました。ハーブに関わる職員はハーブの知識を身につけ、その魅力を利用者に伝えるために資格を取得しています。(メディカルハーブコーディネーター・ハーブ&ライフコーディネーター各1名)。今後もハーブと新しい村をより身近に感じてもらう事で、新たな層の来園者との交流体験を行います。

⑩バーベキューによる地産地消の推進

新しい村の環境に親しんでもらうとともに、地場産野菜を使用したバーベキューで地産地消の推進を図り、新たな訪問者を増やし、新しい村のファンを増やしていくことを目的に、平成30年9月から、芝生広場の一部を使用したバーベキューの利用を開始しました。

令和8年度も継続して行います。

⑪売上計画(金額単位：千円)

項 目	目標集客数	売上計画	前期実績
市民農園利用料	継続的に90%以上(64区画以上)	870	868
田植え・稲刈り体験	年10回以上・延べ参加者500人以上	2,250	1,960
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者300人以上	310	344
野菜収穫体験	延べ参加者400人以上	180	139
婚活交流	年5回以上、延べ参加者180人以上	400	494
宮代産野菜を使用した料理講座	年6回以上、延べ参加者60人以上	100	191

1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 3 回以上、延べ参加者 30 人以上	470	473
ハーブ講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上	410	230
ジャム販売		290	439
その他講座		160	84
ハーブ売上		400	553
施設貸出、その他商品、イベント出店等		1, 360	1, 349
合計		7, 200	7, 124

施設総合管理について

(1) 第26期年間スケジュール表

自然環境の保全と園内の美化に努め、来園者の安全確保と癒しの空間造りを目指します。

No.	管理業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	草刈作業	○	○	○	○	○	○
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年1回）			○			
8	害虫駆除	○	○	○	○	○	○
9	特別清掃				○		
No.	管理業務内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	草刈作業	○	○				
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						○
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年1回）						
8	害虫駆除	○	○				
9	特別清掃					○	

第26期各事業部収益計画

(1) 第26期各事業部収益計画(金額単位:千円)

項目	勘定科目	収益計画	前期実績
売上高	カフェ事業（地産地消課）	10,600	10,466
	直売所事業（地産地消課）	241,090	240,673
	外販事業（地産地消課）	17,950	17,939
	農業支援事業（アグリ生産課）	70,754	65,879
	グリーンツーリズム事業（総務・経理課）	7,200	7,124
	事業部計	347,594	342,081
	売上総損益金額 指定管理料含む	120,000	
	販売費及び一般管理費合計	113,000	
	営業利益	7,000	
	経常外損益	3,000	
	経常損益金額	10,000	

□議案第 5 号 取締役の報酬額の件

取締役の受けるべき報酬の額を年額 600 万円以内とし、支給の額は取締役会議で決定する。

□議案第 6 号 監査役の報酬額の件

監査役の受けるべき報酬の額を 1 名につき年額 8 万 4 千円とする。

□議案第 7 号 会計参与の報酬額の件

会計参与の受けるべき報酬の額を年額 19 万 8 千円とする。

□議案第 8 号 退任取締役・監査役に対して退職慰労金贈呈の件